

がれき広域処理

伊賀南部センターでの受け入れ

伊賀市と協議、検討

名張市長が認識示す

【名張】亀井利克名張市長は九日、震災がれきの広域処理について報道陣の取材に応じ、自身が管理者を務める伊賀南部環境衛生組合が管理する伊賀南部クリーンセンター（伊賀市奥鹿野）での受け入れについて、同市と協議して検討するとの認識を示した。【一面参照】

対応は、ガイドラインが完成した後に示したい」と述べ、来月以降にあらためて説明の機会を設けるとした。

先月二十七日に市長会会長として、鈴木英敬知事や町村会会長の谷口友見大紀町長と視察した宮城、岩手両県について、亀井市長は

「がれきの放射線量は町中と変わらず、十分に管理されている」と強調した。被災地の状況については「震災から一年以上が経過

中、被災者はいまだに厳しい生活を強いられている。復興の一步である震災がれきの処理が十分に進んでいる」と指摘した。一方、「全国の自治体の首長は、市民への安全安心という最大の責めを負っている」と述べた。

市環境対策室によると、名張市内には、がれきの処理能力を持つ焼却施設はない。一方、同組合によると、伊賀南部クリーンセンターは一日五ト、年間一千二百トのがれきを受け入れることが可能としている。



記者の質問に応じる亀井市長
＝名張市役所で